

多くの「行動的課題」のある利用者の 豊かな暮らしと社会参加を目指して

社会福祉法人北摂杉の子会
理事長 松上利男

行動障害のある人と虐待

- 2012年10月1日：『障害者虐待防止法』の施行
- 2013年から強度行動障害支援者養成研修の実施

- 被虐待者の中で行動障害を伴う人たちが多くを占めている
- 強度行動障害支援者養成研修では毎年2万人を超える支援者が修了
- しかし、2017年度の被虐待者666人中、行動障害のある人の割合は29.7%と減少していない…
⇒自閉症・発達障害の特性理解に基づく支援が提供されていない…
- その為、強度行動障害支援者養成研修修了後の継続した現任研修の必要性
⇒特に、福祉事業所における組織的な継続した研修と実践が重要！



公器としての社会福祉法人・事業所が行動障害のある人たちへの適切な支援を提供して、その人たちの社会参加を目指すことが責務としてある

京北やまぐにの郷での実践

京北やまぐにの郷に施設長として赴任して

- 1989年9月：38歳で、重い知的な障害を伴う自閉症者の入所施設「京北やまぐにの郷」施設長に就任⇒多くの「行動的課題」のある利用者、いわゆる「強度行動障害」のある人たちの支援に向き合う
- 就任当初の思い：「人間らしい暮らしの場と尊厳をもって生きていくことの支援を責任者として実現したい」⇒人間らしい暮らしの場の創造（職住分離、ユニット・ケア、日中活動の充実、社会参加）
- 当時の強度行動障害をめぐる社会状況
 - （1）重い知的障害・強度行動障害を伴う自閉症の子どもを抱える親たちが自閉症者施設（自称）の建設が全国的に広がる
 - （2）先行研究：1988年「強度行動障害児者の行動改善及び処遇のあり方に関する研究（日本女子大学教授、弘済学園園長飯田雅子）」
 - （3）アメリカ・ノースカロライナ州の自閉症への支援システム：TEACCHの理念と支援アプローチ
 - （4）1992年度～1993年度：「京都府強度行動障害者処遇調査研究会」座長

旧支援システムと新支援システムとの比較 I ; 生活・日中活動グループ 編成

日中活動グループ	利用者数	職員数
牧場	10	1
療育 I	7	3
療育 II	5	2
織り	5	1
木工	6	1
下請け	12	2
生活グループ	49	3

日中活動グループ・生活グループ	利用者数	職員数
木工	9	1
織り	7	1
しいたけ	10	
下請け I	8	1
下請け II	10	1
生活A	10	1
生活B	10	1
生活C	10	1
生活D	9	1

時間	日課
6 : 3 0	起床
8 : 0 0	朝食
9 : 0 0	歯磨き
9 : 2 0	全体朝礼
9 : 4 5	掃除
1 0 : 1 0	活動準備
1 0 : 3 0	運動プログラム
1 2 : 0 0	昼食
1 3 : 0 0	作業
1 6 : 0 0	入浴
1 7 : 3 0	夕食
1 9 : 3 0	おやつ・就寝準備
2 1 : 0 0	就寝

時間	日課	時間	日課
6 : 3 0	起床・洗顔	1 5 : 3 0	作業終了
7 : 3 0	朝食	1 5 : 4 5	運動プログラム
8 : 1 5	歯磨き・掃除・排泄	1 6 : 1 5	入浴
8 : 4 5	グループミーティング	1 8 : 0 0	夕食
9 : 0 0	作業	1 8 : 4 5	片付け・歯磨き
1 1 : 4 0	作業終了・配膳	1 9 : 1 5	ロッカー整理
1 2 : 0 0	昼食	1 9 : 3 0	ティータイム
1 2 : 4 5	片付け・入浴準備・作業準備	2 0 : 3 0	グループミーティング
1 3 : 0 0	作業	2 1 : 3 0	就寝準備・就寝

旧支援システムと新支援システムとの比較Ⅲ：職員勤務体制

	勤務時間	職員数
日勤	9：00～ 17：45	9
早出	7：00～ 15：45	1
遅出	12：00～ 22：00	1
遅出・宿直	13：00～ 翌朝9：45	2

	勤務時間	職員数
A勤務	6：30～ 15：15	5
B勤務	9：00～ 17：45	5
C勤務	13：15～ 22：00	5
E勤務（宿直）	22：00～ 翌朝6：00	2

同一の強度行動障害者（N=14）の平均得点

行動障害	ユニットケア導入前	ユニットケア導入1年後	差
自傷（強さ）	2.00	1.43	2.28
自傷（頻度）	2.36	1.43	2.74
他傷（強さ）	1.57	0.93	1.98
他傷（頻度）	1.14	0.93	1.15
こだわり	3.07	2.86	0.76
物壊し	1.64	0.93	3.22
睡眠障害	1.29	0.43	2.28
摂食障害	2.21	2.00	0.90
排泄障害	2.21	1.29	2.74
多動	2.07	1.29	3.29
寡動	2.07	1.29	2.80
総得点	21.64	14.79	6.79

同一の自閉性障害者 (N = 28) の平均得点

行動障害	ユニットケア導入前	ユニットケア導入後	差
自傷 (強さ)	1.54	1.00	2.95
自傷 (頻度)	1.54	1.00	2.30
他傷 (強さ)	1.14	0.86	1.44
他傷 (頻度)	0.86	0.71	1.44
こだわり	2.61	2.57	0.18
物こわし	1.11	0.64	2.56
睡眠障害	1.32	0.50	3.57
摂食障害	1.79	1.43	1.63
排泄障害	1.29	0.57	3.20
多動	1.68	0.96	4.42
寡動	1.57	1.04	2.49
総得点	16.43	11.29	6.95

行動障害のある利用者支援で学んだこと

- TEACCHの理念との出会い：自閉症との人々が自閉症という特性をもったまま、出来るだけ自立的で生産的な活動をしなから、私たち一般の人と共生的に生きていくことを支援するものです。そのための創意や工夫、そして実践がTEACCHプログラムです。（佐々木正美）
- 障害特性の理解とアセスメントベースの支援の重要性
- 環境へのアプローチ
- 「役割」と「見通し」「理解者がいる」ことが人間として生きていく上で重要
- 連携の重要性

牧場オーナー西村さん



グループ就労：アメリカンミニチュアホース



グループ就労：アメリカンミニチュアホース



グループ就労：アメリカンミニチュアホース



障害者支援施設での支援の実際

-萩の杜での支援-

萩の杜



+ 短期入所事業

施設入所支援事業



生活介護事業



生活介護事業
-従たる事業所-

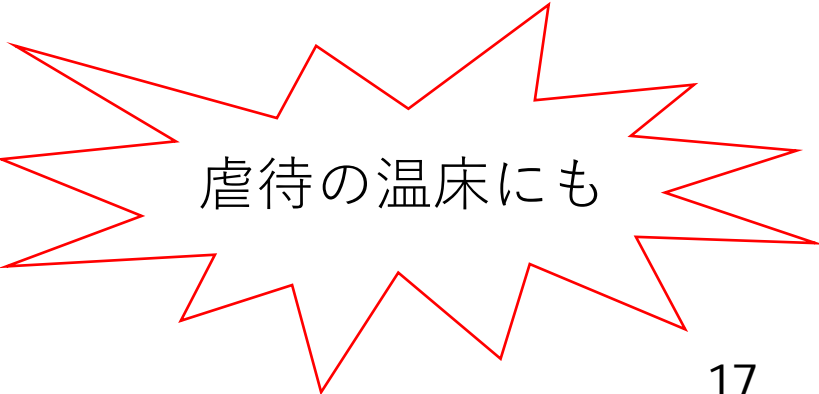
所在地	大阪府高槻市大字萩谷14番地1
事業	①施設入所支援事業 ②生活介護事業 ③短期入所事業(併設) ④日中一時支援事業
定員	①50名(現在50名の方が利用) ②50名(現在56名の方が利用) ③ 5名(2017年度：平均2.1人/日) ④10名(2017年度：平均5.8人/日)
特徴	・ユニットケア ・職住分離
性別	男性37名/女性12名
年齢	32歳-54歳
平均年齢	男性：約44歳/女性：約45歳
施設入所期間	平均12年程度
その他	・障がい支援区分平均：5.78 ・重度障害者支援加算対象：40名 ・重度高齢化の課題

入所施設の特徴と課題

【生活の場】

- ・ 利用者が共住しており、日常生活についての支援を提供する
- ・ 24時間365日の途切れることのない支援

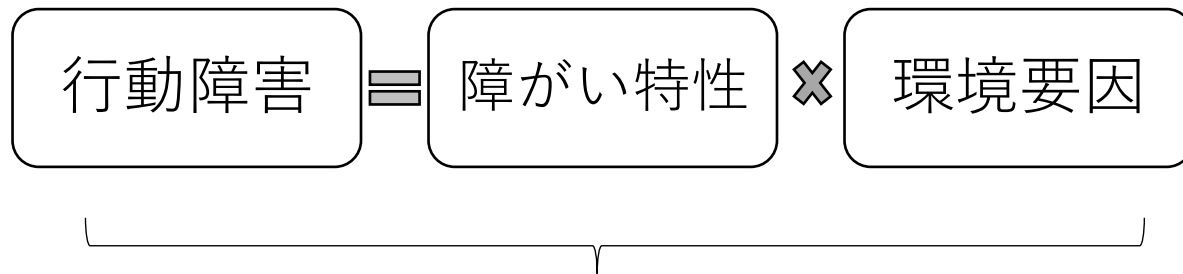
- ・ 施設内で支援が完結しやすく外部の目が入りにくい
- ・ 施設のやり方(ルール)が強調されやすい
- ・ 家族的な雰囲気(利用者と支援者の境界があいまい)
- ・ 支援員は交代勤務で情報共有や対応統一が難しい



虐待の温床にも

行動障害に対する支援の考え方 -アセスメントの視点-

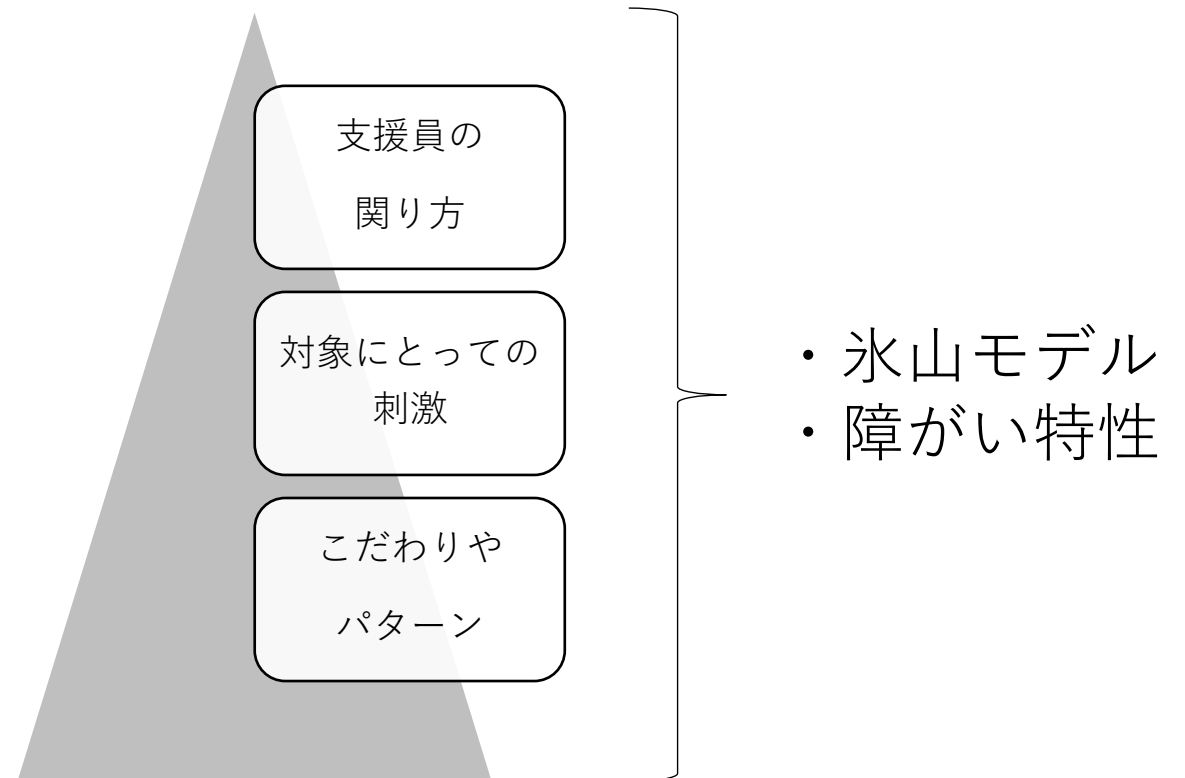
【行動障害を誘発する要因】



行動障害のある方の支援

- ・対象者の**特性**と**環境要因**の分析が欠かせない
- ・**アセスメント**の視点が重要！

【アセスメントのポイント】



冰山モデルで考えてみよう
障がい特性を推測する（行動の原因や理由を考える）

表面上見えている行動

- ・ 頻回な要求
5分おきの要求。最後は1～2分おきに要求。
- ・ スタッフを押す、叩く、噛むなどの他害行動

水面下の要因に
注目する

- ・ 見通しが無いと不安
- ・ 応用が利きにくい
- ・ 言葉の理解が難しい
苦手な特性
- ・ 一度体験したことは
しっかり覚える
- ・ マイルールがある
その他の特性



相互作用

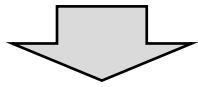
ミスマッチ
負の連鎖状態

- ・ 要求をしても
要求を聞きいれていない
スタッフがいた。
- ・ 「待ってね」という対応
をしていた。
- ・ 答えられない場合は
無視していた
苦手を助長する環境
特性を活かせない環境

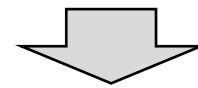
行動的課題への負の連鎖…

-服をすぐ脱いでしまう利用者の事例より-

利用者Aさんは
服を脱いで裸になってしまう



・着るように促すが、
服を着てくれない…
・服を着ない状態が続く…



・利用者Aさんは裸が好き
・裸でいるのが当たり前…

見慣れてくる

・服を脱いでしまう理由を
アセスメントする視点が不足

・場当たりの対応

・支援不足を利用者のせいに
・裸でいることで、
社会参加が阻害される可能性

【構造化の工夫や環境整備】

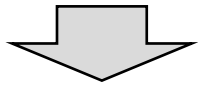
- ・根拠に基づく課題解決(支援)の方法
- ・さまざまな刺激に配慮する
- ・利用者像にあわせてレイアウト変更
- ・活動しやすい動線の意識

【組織的に課題解決に取り組む】

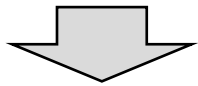
- ・チームで支援する
- ・関係機関との連携
- ・支援の優先順位を決定
- ・管理者の役割は支援現場のサポート

行動的課題の改善に向けた支援 -特性に基づいた環境へのアプローチ-

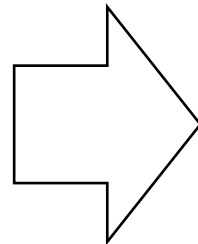
利用者Aさんは
服を脱いで裸になってしまう



・着るように促すが、
服を着てくれない…
・服を着ない状態が続く…

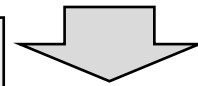


・利用者Aさんは裸が好き
・裸でいるのが当たり前…



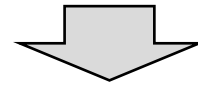
アセスメント

・皮膚感覚が敏感の為、汗で服が濡れた感覚が嫌



特性や環境への配慮

・ガウンのような通気性の良い衣類
・汗をかきやすいタイミングで着替える
・風呂上り等は通気性の良い衣類を着て過ごす



結果

利用者Aさんは服を着て過ごすことができる！

グループホームでの支援の実際
-レジデンスなさはらもとまちでの支援-

レジデンスなさはら・なさはらもとまち -強度行動障害のある人の支援-

【レジデンスなさはら】



2012年4月開設

- ・1番館7名 2番館7名 3番館6名 : 計20名
- ・平均障害支援区分 : 5.9

【レジデンスなさはらもとまち】



2019年4月開設

- ・1番館7名 2番館7名 : 計14名
- ・平均障害支援区分 : 5.6

グループホームの特徴と取り組み

【特徴】

少人数での暮らし

- ・ 刺激が少なく強度行動障害の方には適した環境。また、支援者からは、ひとりひとりの暮らしがよく見える。
- ・ さらに一人暮らしニーズも見えてきた

医療との連携は取りやすい

- ・ 訪問看護や訪問診療が受けれるなど、医療との連携がとりやすい。その為、今後の高齢化の支援に対応している。

対応の統一が難しい

- ・ 非常勤スタッフが主戦力となっており、対応の統一が難しい。
- ・ 逆に一人で抱え込んで支援しているホームもある。

【取り組み】

毎週ミーティング

- ・ 対応の統一を図るため、主な支援員が集まり毎週ミーティングを実施してケーススタディを行っている。
- ・ 1週間の状況を共有し、次の1週間の対応や新たな取り組みの対応の統一を図っている。

ご利用者に合わせた設計（環境）

- ・ 特性に合わせてオーダーメイドの環境（合理的配慮のある環境や一人暮らしの環境も設定している。

PDCAサイクルを回す

- ・ ご利用者、ご家族に満足度調査の実施。
- ・ 支援員にはSW（強み弱み）分析を行い組織分析を実施。
- ・ 上記結果を事業計画に反映し、支援内容や環境の改善に取り組む

1さん基礎情報

項目	内容
年齢や性別	28歳 男性
診断等	「知的障がい」「自閉症」「強度行動障害」「右上肢1/2以上欠損」「躁鬱病」 「強迫性障がい」「多動性障がい」
支援区分や手帳	障害支援区分：6 「療育手帳 A」「身体障がい者手帳 1種2級」「精神障がい者保健福祉手帳 1級」
理解	「ご飯食べます」など普段使用している単語などの理解はある ひらがなは理解できる
表出	・「〇〇するよ」など2語文で伝えてくる・拒否は「ないよ」と伝えることもできる ・分からないことは「なになに」と確認する
得意なこと	・スケジュールに沿ってキッチンと活動できる ・前倒しなどはなく、時間をしっかり守ることができる ・10カウントで待つことができる ・Youtubeなど本人が好きな余暇で自立して過ごすことができる
苦手なこと	・要求を達成するまで終われないことがある ・本人自身のルールの変更が難しい・集団の中で活動することが難しい

ひとり暮らしの環境をつくる



(他のご利用者とは別の玄関)



(個別空間にトイレや洗面所設置)

【Iさん居室環境】

- 他の利用者さんの動き、周囲の動き、立ち位置などが気になり、こだわりにつながることがある
- そのため、他の利用者さんとは別の出入り口を設計
- また居室など本人のスペースも、他の利用者さんと接触しない環境にした
- Iさんの個別スペースは、エリア分けを行い
(TVを見たり寝たりするエリア、リラックスエリア、食事エリア)
トイレも本人専用に設計
- 浴室は共有で使用しているが、
本人が浴室へ移動する時には、他の利用者さんは居室へ誘導し、
本人と動線が重ならないように配慮している

1さん スケジュール

	ネンネ (Eテレネンネ)
5:30	テレビでアソビアそび ネンネ
7:00	シャキーン! おちゅ せんめん きゅうけい
7:15	ははははは きゅうけい
7:25	デザインあ きゅうけい
7:35	コレナレデ'南会 ごはん (ごはん・みくろ・ふりかき) きゅうけい
8:00	おんあさんといっしょ おちゅ きんぐ
9:40	コジロ部! ふかひきりBe

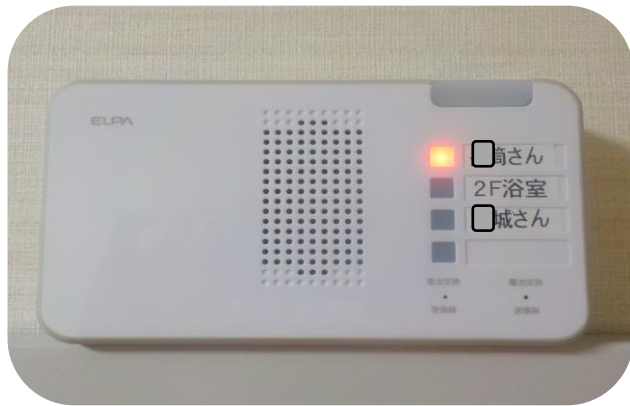
16:00	みんなのうた おやっ きゅうけい
17:10	えいごであそぼ お70 きゅうけい
18:10	らんたろう ごはん きゅうけい
19:55	まいにしあそび くま ネンネ

	6	8	10	11	12
	日	火	木	金	土
おんあ くま たこ	まにま	おんあ くま たこ	おんあ くま たこ	おんあ くま たこ	おんあ くま たこ

1さん 表出コミュニケーション支援



- 居室のドア（本人の目線の位置）にチャイムを設置し、用事がある時に本人が押せるようにしている
- スタッフルームに受信機を設置し、チャイムが鳴ったらスタッフが本人の居室へ行く



- 食事やお茶、薬の要求、スケジュールの確認などの際に本人がチャイムを鳴らす
- その都度スタッフが居室へ行き、要求にこたえたり、予定の確認などを一緒に行う

1さん チームでの支援とまとめ

【チームでの支援】

- 毎週会議を実施し、本人の様子についてふり返りを行っている
- 日々のルーティンの日課の中から、こだわりがどんどん増えていくため、本人の様子をこまめに確認し、スタッフの対応の統一を図っている
- 生活介護事業所、ガイド事業所、家族と連携し、本人の様子に応じて対応方法の変更や調整をしている
- 担当者会議では医師にも参加していただき、本人の様子に応じて服薬調整の相談も行っている

【まとめ】

- 入居前のアセスメントをしっかり行ったことで、スムーズにGHでの生活にうつれている
- 人の動きにこだわりが出てくるため、入居前から環境の調整をし、人の動きが気にならない空間を作ることができた
- 家庭で使用していたスケジュールを導入したことで、本人も日課の流れをよく理解している
- 入居後は、本人の様子を見ながら日々スケジュールの提示方法や対応について調整や変更をしている

「行動的課題」のある人の 意思決定支援の実際

意思決定支援の基本は権利擁護

【利用者の権利】

- (1) 地域社会で生活する権利（地域社会とのつながりを維持する権利）
- (2) 個別ケアを受ける権利
- (3) 質の高いサービスを受ける権利
- (4) 自己決定・自己選択を受ける権利
- (5) わかりやすい情報を受ける権利（Right to Know）
- (6) 意見・質問・苦情などを表明する権利
- (7) プライバシーに関する権利
- (8) 自己尊重の念と尊厳を維持する権利

北摂杉の子会「利用者支援のコア・バリュー」

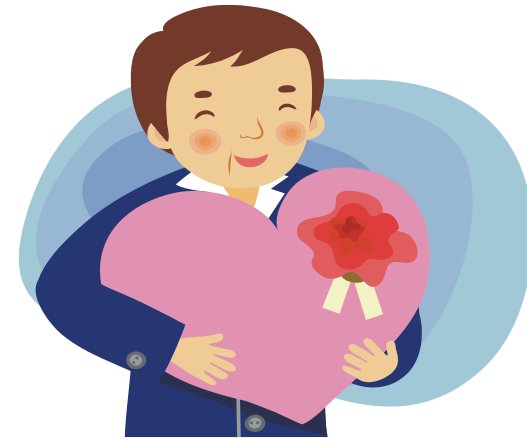
【ある社会福祉法人における利用者支援のコア・バリュー】

【統合化】	利用者の障がい状況に関係なく、利用者に対する支援を地域社会との繋がりの中で行うことを基本とします。
【個別化】	利用者のそれぞれのニーズに基づいた個別的な支援を推進します。
【専門性】	利用者の持つ様々な障がいや心理的社会的問題、ニーズを理解し、利用者自身がその問題を解決し、そのニーズを実現する為の専門的な支援技術の向上に努力します。
【地域】	地域に暮らす知的な障がいのある人やその家族に対して、施設の機能、専門性を活用し、積極的な支援を行います。
【連携】	利用者本人を中心として、家族や関係機関、地域住民との連携を大切にし、トータルケアを推進します。 また、支援を行う上で、職員間の連携を大切にします。
【人権】	利用者の人権を中心に据えた支援を行います。 利用者の個性、年齢に応じた支援を推進します。 また、社会に対する啓発運動を積極的に行います。

意思決定支援を支える社会的環境

ベント・ニイリエのノーマライゼーション8つの原則

- 一日のノーマルなリズム
- 一週間のノーマルなリズム
- 一年間のノーマルなリズム
- ライフサイクルにおけるノーマルな発達経験
- ノーマルな個人の尊厳と自己決定権
- 男性、女性どちらもいる世界に住むこと
- その社会におけるノーマルな経済水準とそれを得る権利
- その地域におけるノーマルな環境形態と水準



私が考える大変重い障がいのある人 に対する意思決定支援で大切なこと

- 選択・決定できる環境
- 様々な経験への支援
- コミュニケーション支援（理解と特に表現性コミュニケーション支援）
- 豊かなライフイベントの創造
- 本人の最善の利益（best interest）について、本人を中心に据えて、本人に係わる多くの人たちで考え、支えるシステム

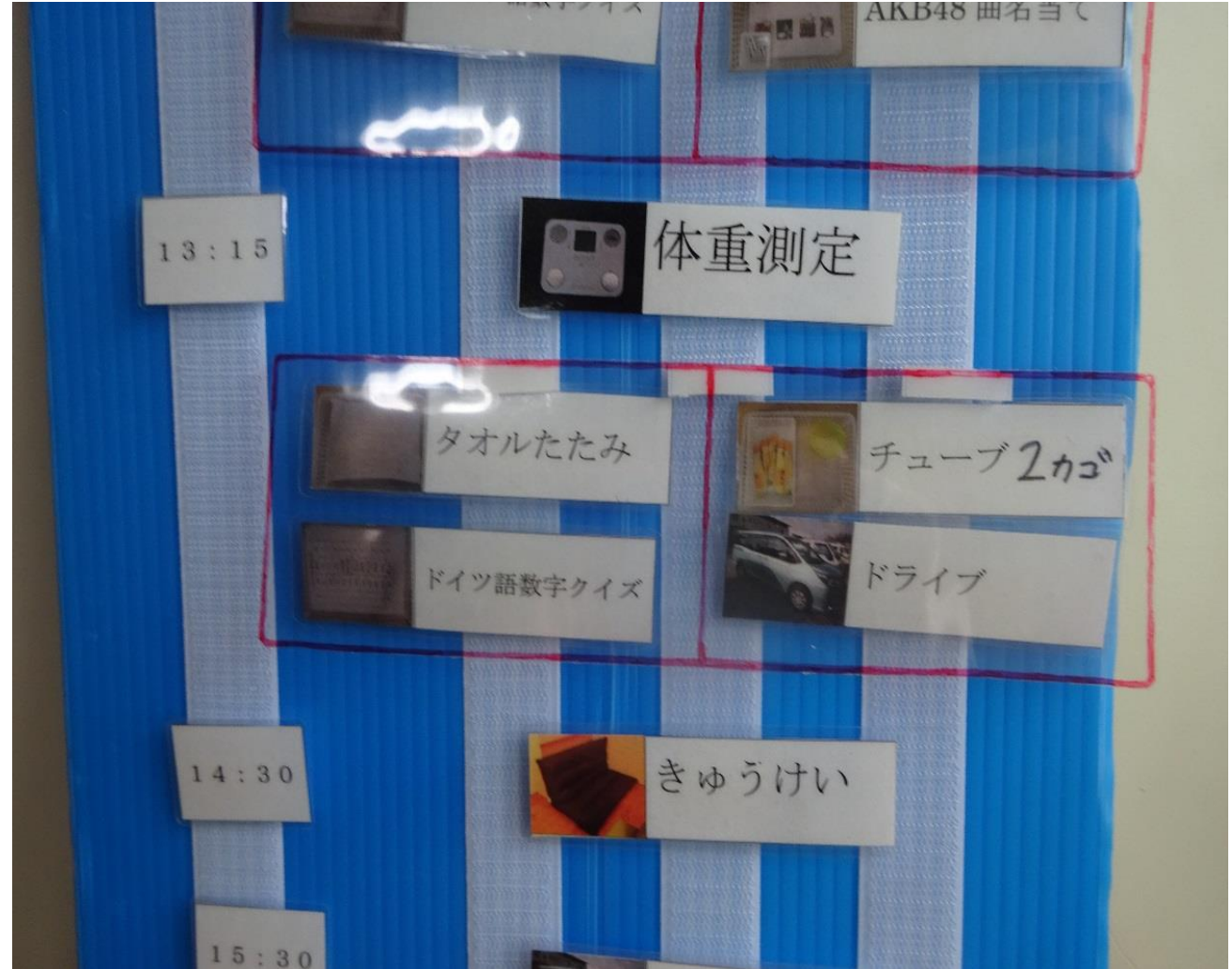
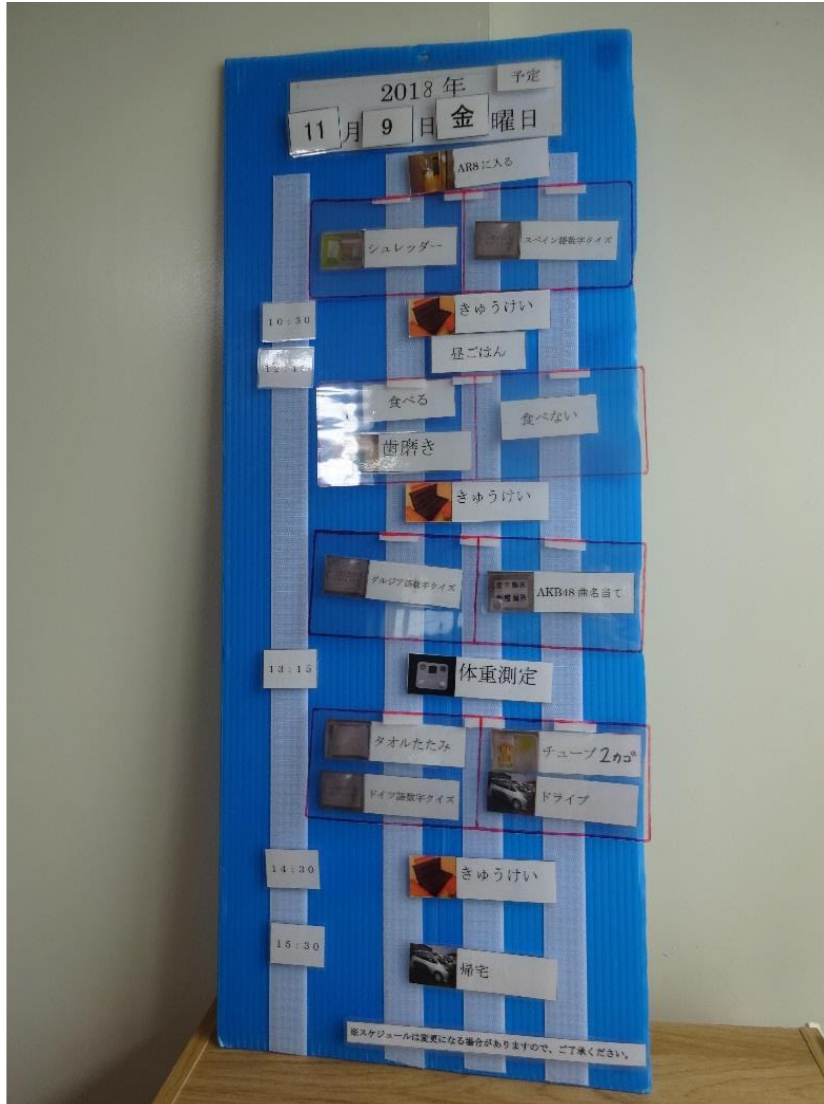
体験への支援①

～日常的に選択・決定できる環境～

- ティータイムでのお菓子の選択
 - まずは2つから
 - 徐々に種類を増やしていく



スケジュールの選択



【選択できるスケジュール】

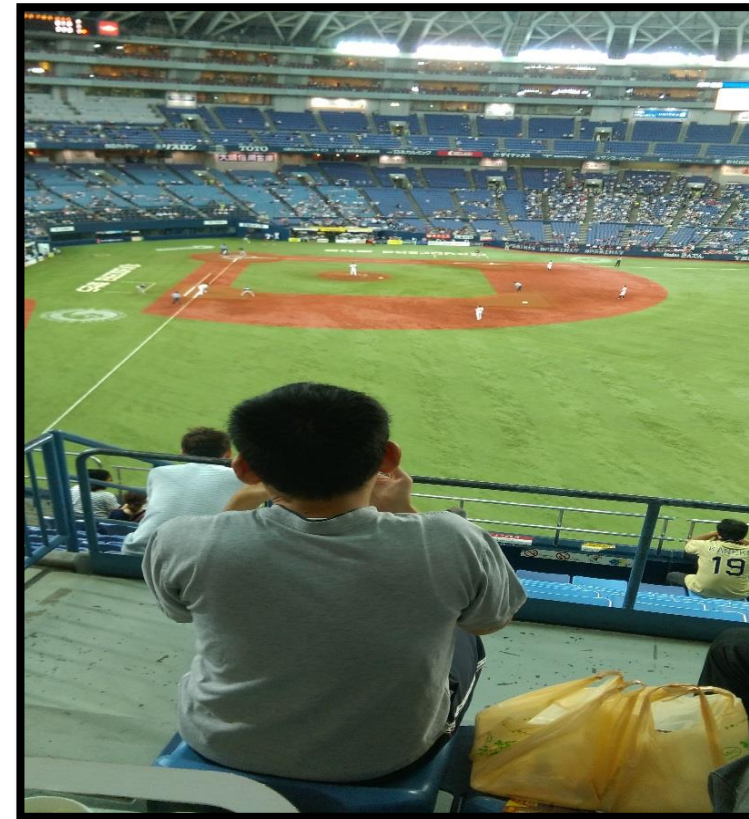
支援者と一緒にスケジュールを決めます
選択肢がとても豊富！



体験への支援②

～社会的体験・社会参加～

- 様々な新たな体験
 - プロ野球観戦
 - スーパー銭湯等に行ってみる



成功体験への支援③

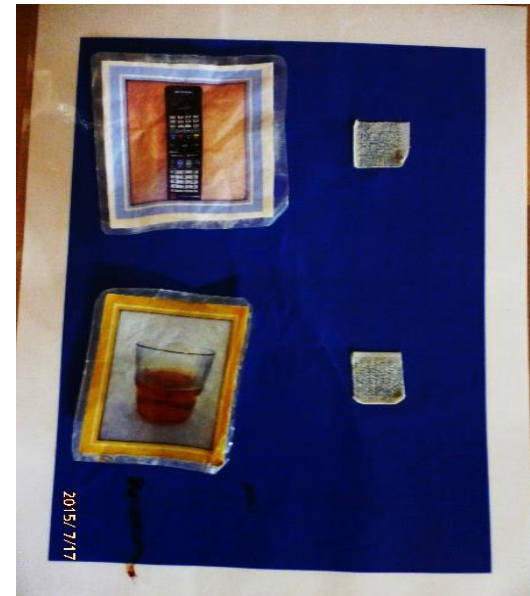
- いろいろな場所で、いろいろな意思決定をする



成功体験への支援④ ～表現性コミュニケーションの支援～

- 要求カードの支援

➤ご本人が要求したい（望んでいる）ことをカードを使用して意思表示



困っていることのヘルプを出すところから始めると導入しやすい。

成功体験支援⑤

- ・ 意思が伝わる、実現する生活は楽しい！
と本人が感じる事ができれば、増えていく！





コミュニケーション支援

障害のある人の権利に関する条約

第21条 表現及び意見の自由及び情報へのアクセス

締結国は、障害のある人が、他の者との平等を基礎として、**第2条に定めるあらゆる形態のコミュニケーション**で、自ら選択するものにより、表現及び意見の自由（情報及び考えを求め、受け、伝える自由を含む）についての権利を行使することが確実にできるようにするための適切な措置をすべてとる。

このため、締結国は、特に次のことを行う。

(b) 障害のある人が、その公的な活動において、手話、点字、**補助代替コミュニケーション**やその他のすべての利用可能なコミュニケーションの手段・形態・様式を、自ら選択して用いることを受け入れ、促進する。

米国児童青年精神医学会（2014）

- コミュニケーションは、支援の中核であり、通常は言語聴覚士と協働して子どもの個別教育計画の中で取り組まれるだろう。
- ことばをまだ話せない子どもには、サイン言語や、コミュニケーションボード、視覚的支援、絵カード交換などの代替コミュニケーション手段を使って支援ができる。PECSやサイン言語、活動スケジュール、音声出力装置（VOCA）の有効性を示すエビデンスがある。

PECSとは？

- PECS (Picture Exchange Communication System : 絵カード交換式コミュニケーションシステム) とは、自閉症やその他のコミュニケーション障害を持つ子どもから成人の方に、コミュニケーションを自発するように教えるための絵カードを使った代替コミュニケーション方法。
- 1985年にアメリカのデラウェア州にて開発され、デラウェア州自閉症プログラムで最初に使用
- 開発者：アンディ・ボンディ博士 (応用行動分析)
ロリ・フロスト (言語聴覚士)

PECSの概要

フェイズ I : とても欲しいアイテムに対して1枚の絵カードを交換することからスタートし、コミュニケーションを自発することを生徒に教えます。

フェイズ II : 絵カードを自分で探しに行ったり、相手のところまで絵カードを持っていくといったことを通して、コミュニケーションの相手に持続的に働きかけることを教えます。

フェイズ III : 絵カードを弁別し、欲しいアイテムと一致した絵カードを選ぶように教えます。

フェイズ IV : 「_____ください」という文を構成し、文章で要求することを教えます。

フェイズ V : 「何がほしいの?」という先生の質問に応答することを教えます。

VI : 質問に答える形で、周囲の物事について自発的にコメントすることを教えます。 **語彙を広げる**

要求の範囲内で色、形、大きさのような属性語の使用を教えます。

(ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社ホームページより)



PECSの 取り組み



多くの「行動的課題」のある人を支援するための組織的アプローチ

「行動的課題」のある人の支援を目的とした事業所コンサルテーションを通して見えてきた課題

障害特性の理解、アセスメントが不十分

- 事例を通して特性の理解とアセスメントを学ぶことが支援力の向上に繋がる

支援者が長期的見通しの中で支援を考えることのサポートが必要

- スモールステップを積み上げる⇒成功体験の気づきへのサポート⇒支援者が自信と達成感を得る⇒実践の外部発信⇒支援者の成長⇒組織としての成長

コアメンバーの育成

- スーパーヴァイザーの育成⇒スーパービジョンを通じた人材育成

対人援助専門職育成の基本

①対人援助専門職の基本

→説明のできる支援

②エビデンスベースの支援

→障がい特性の理解に基づいた支援

※特に“アセスメント力”の向上が重要

③スーパービジョンに基づくOJTを通じた育成が重要

④自己理解と想像する力を磨き上げる

→ロールプレイや自己覚知、エンカウンター等の

実践的トレーニング

※特に自分自身と他者に対する気づきが重要

組織的に取り組む意義・重要性

【組織的に取り組むこと】

集合研修だけでは、支援現場での般化のハードルが高い

【地域で支えるという視点】

生活・労働・余暇などを含めて、地域で支える

【支援のベクトル合わせをして支援】

組織としての方向性(理念・ミッション・支援者としてのコアバリュー)

【チームで統一した支援の視点を持つ】

日中と夜間 etc.

- ・ 組織で取り組むことで、他の関係機関と組織的、計画的な連携が図られる
- ・ 職員を研修に派遣する時には、派遣職員に対して、組織としての目的や役割期待を明確に示し、それを伝えることが重要
⇒職員の成長が組織としての成長に繋がる

行動障害のある人への適切な支援を実現する組織的アプローチの基本は？

- OJTを基本としたスーパービジョンの仕組み
 - ※支援者の育ち、組織の育ち、バーンアウトさせない
- スーパービジョンを担うスーパーヴァイザーの養成
- 外部スーパーヴァイザー、コンサルテーションの導入、活用
- チームによる支援
 - ※支援についての共通理解が重要
(特性理解、アセスメント、個別的な支援マニュアル etc.)
 - そして、個別支援について
徹底してPDCAサイクルを回し続けること
- 地域資源の活用、相談支援事業を軸にした組織連携の創造

多くの「行動的課題」のある人を支援することでの組織としての成長とメリット

